



KAWASAKI TAKATSU R.C.

第2590地区第3グループ 川崎高津ロータリークラブ

2010~2011

事務局：〒213-0041川崎市高津区溝口2-14-1むらたビル3F
 例会場：ホテルKSP TEL 044-819-2211
 例会日：毎週木曜日 12:30 / 毎月第4週 18:00
 会長：三富 末雄
 幹事：相馬 元



R.I.会長
Ray
Klingensmith

クラブ年度テーマ

『地域に根ざした信頼されるロータリーを目指して』

点鐘・開会宣言・歌唱

三富 末雄 会長 「われらの生業」

お客様

森田 倣弘様 (横浜北RC)
 包 海笑様 (米山記念奨学生 卓話者)

報告

会長報告

- * 第5回会長幹事会開催の案内が届いております。
 日時：3月9日(水)18:00～
 場所：鮮藍坊(シエソワフ)
- * R財団より2009-10年度年次報告が届いております。
 お目通し下さい。
- * 第41回神奈川県ロータリー親睦フェス会(上野杯)の案内が届いております。申込締切:3月27日(日)
 日時：4月12日(日)9:30～
 場所：テニス 湘南ロフトスクワ
 (パーティ MOKICHI TRATTORIA)
 参加料：会員 7,000円 家族、ゲスト 4,000円
- 幹事報告
 近隣クラブ 例会変更のお知らせ
- * 新川崎RC:2月16日(水)を19日(土)に変更 IMに参加
 3月2日(水)を2月26日(土)11:00～に移動例会
 R財団地区補助金プログラム実施
 カマ種子植付け後の収穫 川崎マリエ
- * 川崎中央RC:2月21日(月)を19日(土)に変更 IMに参加
- * 川崎大師RC:2月23日(水)18:30～
 移動例会 横浜ベイシエソワフ&ワズ
- * 川崎多摩RC:2月24日(木)を19日(土)に変更 IMに参加
 3月24日(木)休会
- * 川崎麻生RC:2月25日(金)18:00～
 移動例会「手打ちうどん 笹子」
 3月11日(金)12:30～ 環境美化ポスター貼り
 百合ヶ丘カントリークラブ
- * 川崎宮前RC:3月29日(火)休会
- * 川崎百合丘RC:3月29日(火)休会
- * 川崎中RC:3月29日(火)休会
 近隣クラブ HPアドレス変更のお知らせが届いております。
 川崎麻生RC 新しいURL <http://www.asaorc.net>
 近隣クラブ より会報が恵送されております。お目通し下さい。 川崎RC 川崎とどろきRC
 川崎中RC 新川崎RC

諸事お知らせ

- * 次週2月17日(木)の例会は19日(土)に行われるIMに移動例会となります。詳細は後日FAXでご連絡します。
- * 本日例会終了後に定例理事会が開催されます。
 委員会報告 職業奉仕委員会 菊池幸治委員長
 先週の防災教室は皆様のご協力のおかげで無事終えることが出来ました。ありがとうございました。

第29回 例会記録

通算：第1226号
 例会日：平成23年2月10日
 発行日：平成23年2月19日
 今週のプログラム：「卓話 米山記念奨学生 包海笑様」
 次回のプログラム：「IM」
 エコドネーションメッセージ

* お客様

森田倣弘様(横浜北RC)お世話になります。

* RC会員(敬称略、順不同)

- 三富末雄 先日の坂戸小学校での防災教室ご苦労様でした。今日は包くん卓話よろしくお祈りします。
- 相馬 元 横浜北RCの森田様、ようこそいらっしゃいました。包君、本日の卓話よろしくお祈りします。
- 三家 護 無事帰って参りました。お騒がせしました。
- 福嶋 徹 包君、卒論合格おめでとう！
- 三家さん、無事帰国おめでとうございます。

	件	合計	累計	目標額	達成率
ロータリー財団	12	12,000	299,000	300,000	99.67%
米山奨学会	8	8,000	291,000	540,000	53.89%
エコBOX	12	14,000	470,000	1,000,000	47.00%
フルドリBOX	13	13,000	439,000	540,000	81.30%

	会員数	出席義務者	欠席数	出席率	MU	前々回修正
本日	27	25	9	64.00%		
前々回	27	25	13	1月27日分	4	64.00%

クラブ会報委員会

福嶋 徹委員長 茅根正之副委員長
 鈴木良一委員 大橋健治委員 編集担当：鈴木良一



卓話「2020年CO2削減に向けた分野別実現可能な限度の推定に関する研究」
米山記念奨学生 包 海笑様

1. 研究背景

地球の温度の上昇ペースが加速する傾向が観測されているがその原因として人間の産業活動によって排出された二酸化炭素が主因とする説が主流となっています。そこで今後どれだけCO2削減できるか推定することを目的としました。

2. 研究方法

日本における二酸化炭素の排出状況を調べ、重点削減分野に対して削減限度を推定します。

3. 日本における二酸化炭素の排出状況

I化石-転換部門が最も多く、次いで産業部門と運輸部門で民生部門が最も少ない。

4. I化石-転換部門の削減限度について

I化石-転換部門では発電による二酸化炭素排出量が最も多い。電力需要をクリーンI化石-の大量導入によることが必要とされます。

主なクリーンI化石-は風力・ソーラー・水力・地熱・原子力・バイオなどが挙げられます。

本研究ではメガソーラー、落差利用水力発電、バイオマスについて検討します。

(1) メガソーラー 問題点として

性能の問題 コストが高い 広い敷地の確保が必要などが挙げられています。

については日照条件の良い場所への設置。 については技術革新と再生I化石-の全量買取制度の活用による採算性の向上。 は耕作地の活用が考えられます。

本研究ではこれらの対策を実行した上の最大発電量を推定しました。

最大年間発電量 2807億KWh

(2) バイオマス 最大導入量90億KWh

(3) 落差利用水力 最大導入量16億KWhで既存の開発電量と合わせると26億KWhとなります。

2020年までの削減限度218.5百万ト(2005年比)

民生部門

太陽光発電の最大導入可能量の予測 太陽光発電固定価格買取は日本では採算が合わず導入し難いと思われ

ます。

太陽光発電パネル大量普及への提案

リフォーム費用70万円補助 買い取り価格を2020年まで5%ずつ下げる。 保障期間を15年にする。

1-サー-が15年で回収できるよう補助金を出す。 2020年までに1770万戸が太陽光I化石-導入可能となります。これにより2020年に42百万トのCO2削減効果があります。更にその他省I化石-技術の進展により民生部門の削減限度は157億トと推定されます。

まとめと考察：日本国内だけでも1990年に対して28%のCO2削減が可能であると考えられます。

